

<b>第 5-6 回</b> (2007.5.18,25)	<b>目録情報とその利用法</b> 川崎良孝教授 (教育学研究科)
<p>第 5 回：講義</p> <p>出席者：87 名</p> <p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義資料 (A3 用紙 1 枚)</li> <li>・ 資料 1 (A4 ホチキス止め 1 部)</li> </ul> <p>講義前半 (13:00-14:00) 川崎先生の講義</p> <p>「本をどのように並べてきたか、その本を探すためにどういう手立てを講じてきたか」</p> <p>資料探索技術の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料をどうやって探すか</li> <li>効率よく資料を探索する技術を身につけることが求められる</li> </ul> <p>分類の仕方と探し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが分類を行っている (自宅の本棚など)</li> <li>どのように並べる (=分類する) かとどのように探すかが重要</li> </ul> <p>1700 年頃の書架</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作り付けの書架に大きさ毎に棚を決め、受入順に配架</li> <li>書架番号と棚番号と並び順によって、図書の位置を表現</li> <li>著者目録が作成されていた</li> </ul> <p>主題検索の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主題を書架に反映</li> <li>(主題による) 書架番号と棚番号と並び順によって、図書の位置を表現</li> <li>ボイルストン街図書館の設計思想と限界</li> <li>新しい主題の追加と特定の書架の狭隘</li> </ul> <p>固定式配架から移動式配架へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書架の位置を本に割り振る方法 (固定式配架) から主題を本に割り振り書架とドッキングさせる方法 (移動式配架) に移行</li> <li>大学教育の変化や公共図書館のサービスの変化が主題による分類を後押し</li> <li>冊子体目録からカード目録へ</li> <li>分類・目録作業の集中化</li> </ul> <p>主題別部門制と総合目録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主題別部門制の要件 (部屋・固有の蔵書・専門職員・目録)</li> <li>全館目録 (=総合目録) 作成の必要性</li> </ul> <p>京都大学の図書館・室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各図書館室の作成した目録を附属図書館で総合目録として設置</li> <li>OPAC の整備により、大学内ひいては外部からの検索が可能に</li> <li>各大学から地域・全国へと分類・目録作業の集中化が行われ、その流れは全世界へと繋がっていく</li> </ul> <p>講義後半 (14:00-14:30) 次週の演習に備え、基礎的な目録検索の解説を図書職員が行った。 (パワーポイント使用、学生には資料 1 を見てもらった)</p> <p>参考文献とは：参考文献の見方と注意点、目録とは？</p> <p>カード目録</p> <p>オンライン目録(OPAC): 電子ジャーナルについて。KULINE、NACSIS Webcat、Webcat Plus、NDL-OPAC、British Library、Amazon の解説</p> <p>オンライン目録で検索できない資料</p>	

第 6 回：演習

出席者：

学術情報メディアセンター南館 203, 204： 96 人

時間配分

13:00 - 13:30 例題解説

13:30 - 14:30 演習 10 問

配布資料

- ・資料 2 (A4 ホチキス止め 1 部)
- ・演習問題 (A4 プリント 1 枚)